様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２２０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ０１１７３

研究課題名（和文）医学教育におけるフィールドワークの意義

研究課題名（英文）The significance of fieldwork in medical education

研究代表者
渥美　一弥（Atsumi, Kazuya）

自治医科大学・医学部・客員研究員

研究者番号：３０６４６３４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：現在までに、医師が医療人類学的視点で医学を再考する研究や人類学者が医学を人類学的視点で研究するものはあったが、報告者のもとで、実際に、学生時代に文化人類学を学んだ若き医師たちが、地域医療を実践するうえで、文化人類学的な視点がどのように有効であるかを確認する研究は本研究が初めてである。その意味で、2021年に、本研究の成果として協同医書出版社から出版された「医師と人類学者との対話―ともに地域医療について考える」は、日本における他に類を見ない先駆的成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、文化人類学という人文科学の視点が医学を基本とした医療活動にどのように有効であるか明示した点である。文化人類学の視点が、自然科学を基盤としている生物医学を社会的に実践する医療活動においていかに有効であるかを確認できたことにより、将来、文化人類学の学問的視点を医学教育にどのように取り入れていくか具体的に考えていく場合の貴重な資料となり得る。

研究成果の概要（英文）： To date, there have been studies in which doctors reconsider medicine from a medical anthropological perspective and anthropologists study medicine from an anthropological perspective, but this is the first study to confirm how effective a cultural anthropological perspective is when young doctors who have actually studied anthropology under the author's guidance when they were students practice community medicine. Through this research, we have confirmed how effective the perspective of cultural anthropology, which is based on fieldwork as an academic foundation, is in "community medical activities." In this sense, the book "Dialogue between Doctors and Anthropologists --- Thinking about Community Medicine Together" published by Kyodo Isho Publishing in 2021 as a result of this research is a pioneering work unlike any other in Japan.

研究分野：文化人類学

キーワード：文化人類学　地域医療　フィールドワーク　他者理解　異文化理解

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）　平成 28 年度改訂版の「医学教育モデル・コア・カ リキュラム」が公表された。この改訂版には、「文化人類学」に関する記述が新たに加えられている。「医学教育モデル・コア・カリキュラム」は、医学部生が卒業までに修得すべき学習内容を定めたものである。その影響で日本各地の医学部において文化人類学の内容をカリキュラムに取り入れようという動向がみられるようになった。

（２）　一般教養課程における文化人類学導入の目的として、文化的社会的文脈のなかで人の心と社会の仕組みを理解するための基礎的な知識と考え方及びリベラルアーツを学び、医療に関する文化人類学・社会学の視点・方法・理論について、理解を 深めることが挙げられるようになった。

２．研究の目的

（１）　文化人類学と医療に関して、医師が医療人類学的視点で医学を再考する研究や人類学者が医学を人類学的視点で研究するものはあったが、実際に、学生時代に文化人類学を学んだ若き医師たちが、地域医療を実践するうえで、文化人類学的な視点をどのように捉えているかを明確にすることを第一の目的とした。

（２）　その基盤となる医療実践を文化人類学のフィールドワークという視点でとらえるとどのような視点が可能か明確に提示することを目指した。

３．研究の方法

（１）　医療に恵まれない地域の医療に挺身する気概と高度な臨床能力を有する医師の育成を目的としている自治医科大学で実際に文化人類学を学んだ医師を中心に、医師が地域医療の実践においてどのような問題を抱え、それをどのように解決していくか、そのプロセスに文化人類学的視点はどのように有効であるかということを、研究チームの文化人類学者と医師でフィールドワークを行い、聞き取り調査をおこなった。

　また、文化人類学を学んだ若き医師が医療活動を行っていくうえで文化人類学の学問的視点がどのように有効か、医師自身がまとめ、研究会等で発表をおこなった。

４．研究成果

（１）　本研究の最重要成果は、2021 年の 6 月 4 日「医師と人類学者との対話―ともに地域医療について考える―」（医学協同社）を出版することにより、本研究を通じての考察を一冊の本にまとめあげたことである。本書は医療の専門家のサファリングの本質を、地域・へき地医療で働く若い医師たちの経験を通して問うている。著者となった医師たちは、全員学生時代に文化人類学を学んでおり、そこで学んだ文化人類学的な思考方法やその記述方法を活用して、自分自身の医師としての経験の意味や自身の役割を文化人類学的視点において見出してきた人々である。本書には、文化人類学を学んだことがどのように医療活動に活かせているか具体的に述べられている。

（２） 2020 年の日本文化人類学会第 54 回研究大会（オンライン）において、文化人類学を学んだ医師たちが、文化人類学という視点を身につけたがゆえに、医師患者関係を超えたヒトの問題にまで関心を高め、そのため、新たなサファリングを生み出したことを明らかした。また、それらがより深い医師患者関係を形成していくきっかけにもなったことを指摘した。その事実を、それまで医学と文化人類学の問題に無関係であった人類学者にも明らかにし、関心を持たせることができた。

（３） 2021 年の第 53 回日本医学教育学会大会において、文化人類学を学んだ医師による医療実践の報告を行い、現役の医師の多い医学教育者に、初めて、文化人類学を学んだ医師が具体的にどのように考えるのか、行動するのか伝えることができた。

（４） 2018 年のＭＥＤＣ第 70 回医学教育セミナーとワークショップにおいて、それまで自治医科大学において行ってきた文化人類学教育がどのような医師をうみだしているのか、文化人類学と医療活動について新たな側面を提示することができた。

（５） 2023 年渥美の発表した論文が採用されている共著書「フィールドから地球を学ぶ: 地理授業のための 60 のエピソード」（古今書院）が 2023 年度日本地理教育学会出版文化賞を受賞した。本研究のテーマの一つである「フィールドワーク」を長い間実践してきたことが、地理を専門とする研究者のあいだでも高く評価され、文化人類学におけるフィールドワークの有効性が高く評価されることとなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 浮ケ谷幸代	４．巻 33
２．論文標題 『医師と人類学者との対話――ともに地域医療について考える』（渥美一弥・浮ケ谷幸代・佐藤正章・星野 晋編、協同医書出版社）についての）「書評（孫、樫田）に対するリプライ」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 保健医療社会学論集	６．最初と最後の頁 27－28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 浮ケ谷幸代	４．巻 23
２．論文標題 「特集 医療×人類学×臨床――人と向き合う現場からの報告 序章」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 文化人類学研究	６．最初と最後の頁 1－5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 浮ケ谷幸代	４．巻 33－2
２．論文標題 「書評 三井さよ『ケアと支援と「社会」の発見――個の向こうにあるもの』	５．発行年 2022年
３．雑誌名 保健医療社会学論集	６．最初と最後の頁 112－113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 浮ヶ谷幸代	４．巻 第13巻　第1号
２．論文標題 文化人類学者が見た対話の力	５．発行年 2019年
３．雑誌名 パペットセラピー	６．最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　7件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 渥美一弥
2．発表標題 趣旨説明
3．学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4．発表年 2021年

1．発表者名 星野晋
2．発表標題 「ふつう」であること：地域社会が主体的に育む地域医療マインド
3．学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4．発表年 2021年

1．発表者名 浮ヶ谷幸代
2．発表標題 地域医療とフィールドワークとの類似
3．学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4．発表年 2021年

1．発表者名 佐藤正章
2．発表標題 医学教育は文化人類学をどう活用するか
3．学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 渥美一弥
２．発表標題 若手医師のサファリング：文化人類学を学んだゆえのサファリング
３．学会等名 日本文化人類学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 浮ケ谷幸代
２．発表標題 医師が死にゆく人に出会うとき：宮城県登米市の地域医療に携わる医師の経験から
３．学会等名 日本文化人類学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 星野晋
２．発表標題 地域ぐるみで医師を育てる：山口県における地域基盤型医療人材育成の事例から
３．学会等名 日本文化人類学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤正章
２．発表標題 医師が文化人類学に望むこと
３．学会等名 日本文化人類学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤正章
２．発表標題 「もやもや感」を生み出す医学的思考
３．学会等名 MEDC第70回医学教育セミナーとワークショップ（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 星野晋
２．発表標題 「もやもや」から学ぶ
３．学会等名 MEDC第70回医学教育セミナーとワークショップ（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 渥美一弥
２．発表標題 自治医大の学生の12年間の移り変わりと文化人類学という学問を受け入れる下地の変化についてー骨太な学生から普通の若者へ
３．学会等名 MEDC第70回医学教育セミナーとワークショップ（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

１．著者名 渥美一弥　（横山智他編）	４．発行年 2023年
２．出版社 古今書院	５．総ページ数 138
３．書名 フィールドから地球を学ぶ：地理授業のための60のエピソード	

1．著者名 渥美一弥、浮ケ谷幸代　（浮ケ谷幸代他編）	4．発行年 2022年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 408
3．書名 現代日本の「看取り文化」を構想する	

1．著者名 渥美一弥,浮ヶ谷幸代,佐藤正章,星野 晋 編著	4．発行年 2021年
2．出版社 協同医書出版社	5．総ページ数 288
3．書名 医師と人類学者との対話 -ともに地域医療について考える	

1．著者名 渥美一弥,浮ヶ谷幸代,佐藤正章,星野 晋 編著	4．発行年 2021年
2．出版社 協同医書出版社	5．総ページ数 288
3．書名 『医師と人類学者との対話 -ともに地域医療について考える-』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	星野　晋 (Hoshino Shin) (00259649)	山口大学・国際総合科学部・准教授 (15501)	
研究分担者	浮ヶ谷　幸代 (Ukigaya Sachiyo) (40550835)	自治医科大学・医学部・客員研究員 (32202)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小谷　和彦 (Kazuhiko Kotani) (60335510)	自治医科大学・医学部・教授 (32202)	
研究分担者	佐藤　正章 (Masaaki Satoh) (70382918)	自治医科大学・医学部・准教授 (32202)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関